

輸出事業計画

※申請者名：ジャパンフルーツ株式会社

品目：キウイフルーツ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

キウイフルーツは2009年以降、国内外の消費量が大きく増加した果樹作物であり、今後も市場規模が大きくなることが予想される。しかし、国内生産量は減少を続けており国内外の需要に対しキウイフルーツ産業の成長が追いついていない現状である。

このような状況を受けて、ジャパンフルーツ株式会社はキウイフルーツの輸出量拡大に向け、2021年よりキウイフルーツの栽培を進め現在に至るまでに香川県及び群馬県にて17haの開園を行ってきた。また、輸出事業者として本事業に取り組む、株式会社日本農業では2022年よりキウイフルーツの輸出を開始し2023年産においては8.4トンの輸出を行った。

今後も増加を続けていくキウイフルーツの需要に対し、国産キウイフルーツの供給を増加させるために新たなモデルケースを構築していく必要がある。

【課題】

各国共通

<生産>

- ・ 国産キウイフルーツの大部分は国内で消費されるため輸出向けの栽培管理方法が確立されていない。
- ・ 他の作物との兼業農家が多く、大規模栽培におけるノウハウや栽培管理の知見を持つ農家が少ない。

<流通>

- ・ 収穫後、農家単位で選別、粗選果を実施したうえで出荷しているため農家の労働負担が増加しているほか、品質の統一と追熟管理を困難にしている。
- ・ 経路により発生する品質劣化の程度や輸送中の追熟の進行など着荷時の品質をコントロールするノウハウが不足している。

<販売>

- ・ 本取組で輸出する品目の一つであるさめきキウイっこの優れた食味を持つ品種である一方、これまでに輸出された取り組みが少なく、現地ニーズに合わせた販売方法や輸出向けロットの確保など輸出に向けたスキームを新たに構築する必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

【課題解決に向けた取り組み】

<生産>

- ・ 園地の土壌成分をはじめとする各種数値のサンプリング、収穫前の果実の糖度測定を通じて輸出向け管理ノウハウの蓄積を進める。
- ・ 大規模なストリング栽培の実証を行い、大規模栽培のモデルケースを構築しノウハウを蓄積していくことでキウイフルーツ生産量の増加を目指す。
- ・ キウイ栽培先進国であるニュージーランド、イタリアでの産地形成の事例を収集し、大規模産地形成のノウハウの蓄積を進める。
- ・ 香川県と群馬県という異なる環境の園地で収集したデータを双方で共有し、意見交換を行うことで安定的な栽培を目指す。

<流通>

- ・ 空路、海路をはじめ各種陸上輸送方法における追熟の進み度合い、品質への影響を検証し、輸出の適期の見極めを精緻化する。
- ・ 農家から未選果のキウイフルーツの仕入れを行い、自社選果場にて選果を行うことで品質の統一と農家の労働力の再配置を行う。

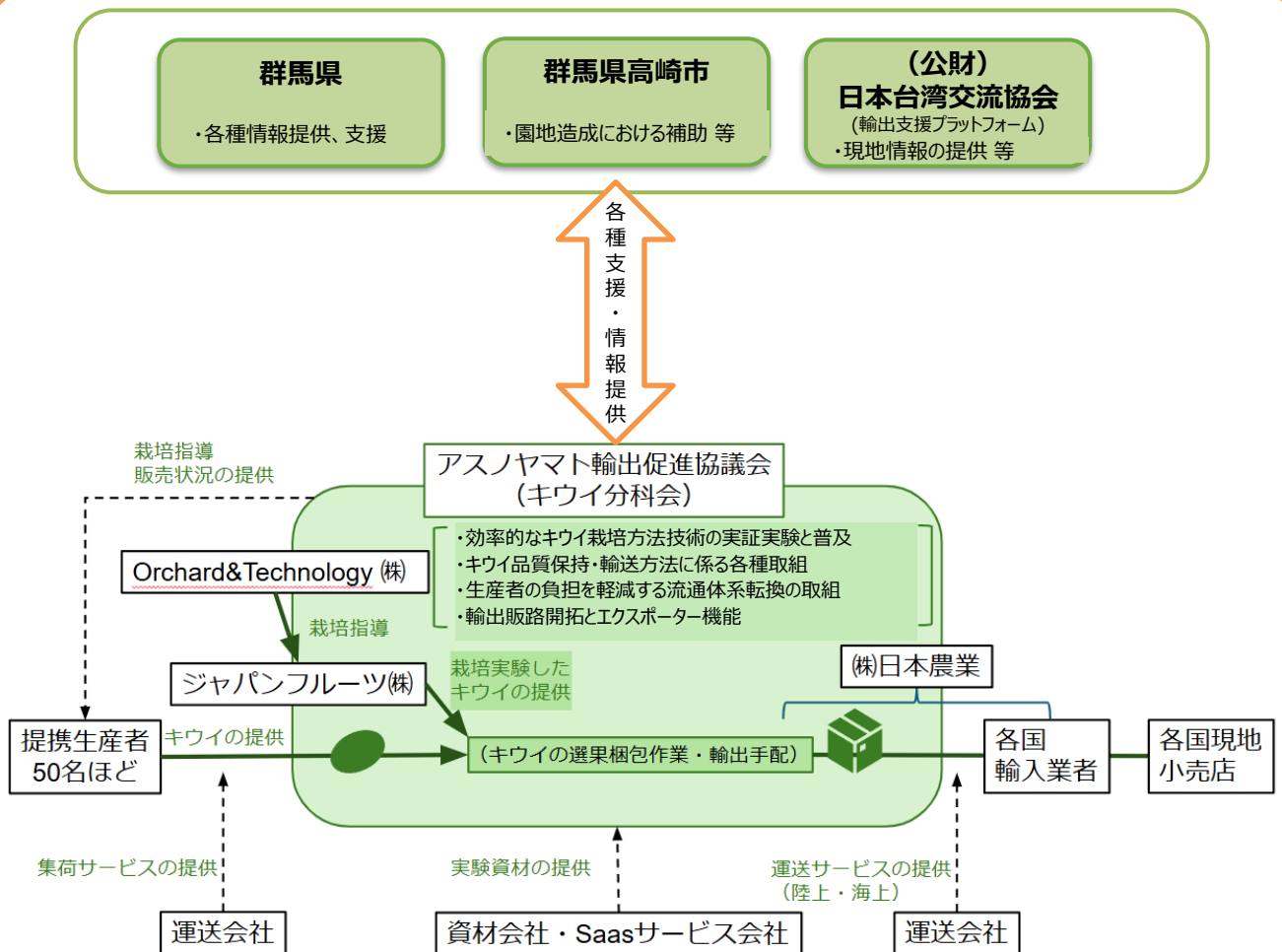
<販売>

- ・ さめきキウイっこの輸出拡大に向け、トライアル輸出を実施する。トライアル輸出においては現地インポーターに対しサンプルを提供するほか現地小売店のニーズを把握することで輸出の拡大を目指す。

※申請者名：ジャパンフルーツ株式会社

品目：キウイフルーツ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和５年度）	目標年（令和７年度）
輸出額(千円)	6,800	40,000
輸出量（kg）	8,400	55,000
輸出先国	香港	台湾、香港
生産量（kg）	14,600	23,500
取扱量（kg）	8,400	31,500